

令和4年度入学試験問題(前期)

国語

【注意事項】

1. 試験開始の合図があるまで、この問題冊子を開いて見てはならない。
2. 本冊子には、一から三までの3問題が印刷されていて、合計17ページある。
落丁、乱丁、印刷の不鮮明な箇所等がある場合には、申し出ること。
3. 解答用紙を別に配付している。解答は、解答用紙の指定された箇所に記入すること。所定の箇所以外に記入したものは無効である。
4. 解答の字数を指定している場合、句読点や符号やかっこ等もそれぞれ一文字分にかえる。
5. 解答用紙の指定された欄に、学部名および受験番号を記入すること。
6. 配付された解答用紙は、持ち帰らないこと。
7. 配付された問題冊子は、持ち帰ること。

— 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

著作権の関係上、省略します。

著作権の関係上、省略します。

著作権の関係上、省略します。

著作権の関係上、省略します。

著作権の関係上、省略します。

(尹雄大^{ゆんゆう}『さよなら、男社会』より)

問一 傍線あゝおの漢字の読み方をひらがなで書きなさい。

あ 凡庸 い 逸(れ) う 臆見 え 萎縮 お 先達

問二 傍線カゝコのカタカナを漢字に直しなさい。

カ カンケツ キ キヒマ ク コキヤク ケ オオム(ね) コ ソ(いだ)

問三 空欄 a b c d に入る最も適当な語句を次より選び、それぞれ記号で答えなさい(それぞれの記号は一度しか使わない)。

ア あるいは イ そのため ウ たとえば エ にもかかわらず オ なぜなら

問四 傍線1「男社会の類型的な男」とあるが、筆者による「男社会の類型的な男」の説明として最もふさわしくない選択肢を一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 自分の繊細な感覚に頼らずに決断をする存在
- イ 他者が否定し得ない確固とした言葉で話す存在
- ウ 決して諦めずに何事をも成し遂げられる存在
- エ 問題が生まれてしまう理由に関心を向ける存在
- オ 自分の弱さを隠すことが強さだと考える存在

問五 傍線2「強さ」とあるが、「男たち」がこのような「強さ」を求める理由を説明したものととして最も適当な選択肢を一つ選び、記号で答えなさい。

ア やれないこと理由を当人の弱さとして捉え、それを克服するように励ます多くの声を聞く中で、自らに弱さと呼ぶべきものがあるという事実を自覚するから。

イ 人は男女問わず人生において実現不可能な壁に突き当たる可能性があるけれども、そのことを認めてしまうと、男である自分の存在価値が消えてしまうと感じるから。

ウ 実行に移すことと移さないことを比較した際に、前者に価値を置いて後者に価値を置かない考え方に基づいた言動をし、さらにそのことの意義も自覚しているから。

エ 我々は誰しも奇跡を起こせるヒーローではないけれども、自分の強さを証明するためであれば、自分の現状にとらわれずに不可能を可能にすることもできるから。

オ ハキハキとした態度で挨拶をし、何かしてもらったら大きな声で感謝を述べることを繰り返すことによって、他者に対する謙虚さを自然と養うことができるから。

問六 傍線3「そうは考えなかった」とあるが、このときの「そう」の指す内容を説明したものととして最も適当な選択肢を一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 常に努力し感謝の気持ちを忘れなければ、現状の問題点を克服することが可能となり、そのことによって製品の品質をより良いものにするができるということ。
- イ 自らの気持ちを強く持つことで甘えた気持ちを制御することが可能となり、そのような努力を続けることによってこの世界で負けることなく生きられるということ。
- ウ 勝つことは人生に必要不可欠なことではなく、人は様々な理由で勝ったり負けたりするものなので、勝たないことが怠けていることの証明にはならないということ。
- エ 研修に参加したのは男の子だけであったけれども、経営者の子供には男の子も女の子もいることから、男性だけでなく女性も研修に参加すべきであるということ。
- オ テストは現在の自分がどれくらいの力なのかを確認する行為である一方、その点数が低いことは努力から逃げる弱い心が存在することを示しているということ。

問七 傍線4「現実と理想のズレ」とあるが、筆者の考える「ズレ」の原因を説明したものととして最も適当な選択肢を一つ選び、記号で答えなさい。

ア 一人一人に存在する感じ方の差異よりも、周囲の男性が理解しやすい論理に重きを置くことで、感じ方の差異に気づくことから自分を遠ざけようとしていること。

イ この世界に存在する様々なやるべき仕事に対して、その社会的価値を理解し、それを実現するために自分が何をすべきかを十分に吟味して捉えられていること。

ウ 他者に納得してもらうには十分な根拠が無いと思えることであっても、そこにはそう感じる理由があるとし、そのように感じる事実を軽視しないでいること。

エ まだはつきりとは言葉にできず、統一も取れていない内容を相手に伝えようとするときに、それを支えるための知識や情報を必ずしも重要視しないでいること。

オ 何かやるべき課題が提示されたときに、その課題が実行可能かどうかに関心を向けている自分の考えに疑いを持たず、そのことを周囲にも強いていること。

問八 傍線5「血道を上げて」とあるが、この意味として最も適当な選択肢を一つ選び、記号で答えなさい。

ア 注意して

イ 抵抗して

ウ 耐えて

エ 怒りを感じて

オ 集中して

問九 傍線6「男がいう『論理』」とあるが、それから実際に導かれると筆者が考えるものとして最も適当な選択肢を一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 水平方向のつながり
- イ 単線の発想
- ウ 工学的なアイデア
- エ 感謝の心と謙虚さ
- オ 感覚の言語化

問十 傍線7「克己ではなく克己心が重要になってくる」とあるが、本文では両者の差異をどのように捉えているか。五十字以内で説明しなさい。

問十一 傍線8「がんばりと無駄」とあるが、これの言い換えとして「力感」のほかに適当な二字の語を本文から抜き出して答えなさい。

問十二 傍線9「男たちの現在地」とあるが、「男たち」がその「現在地」に至る理由を、本文全体の内容を踏まえ、六十五字以内で説明しなさい。

二 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

著作権の関係上、省略します。

著作権の関係上、省略します。

(『十訓抄』より)

(注)

- 無縁 — 社会のすべての共同体に属さず、俗縁をもっていないこと。 ○すさむ — 心に留める。
- さるべききは — しかるべき身分。 ○かぶる — 受ける。 いただく。 ○賤の遊女 — 低い身分の遊女。
- 傀儡 — 漂泊の芸能者。 ○郢曲 — 今様、朗詠、催馬楽などの俗謡の総称。 ○撰集 — 勅撰和歌集。
- 亭子の帝 — 宇多天皇。 平安時代前期の天皇。 ○鳥養院 — 大阪府摂津市の淀川河岸にあった離宮。
- 丹波守玉淵 — 大江玉淵。 平安時代前期の漢学者。
- 白女 — 平安時代前期の江口の遊女の名前。 江口は淀川と神崎川の分岐地であり、交通の要衝で、遊里が栄えた。
- 桂 — 身分の高い女性の服。 襲かさねの上に着用する。 ○一重 — 一組。
- 上達部 — 関白、大臣、大中納言、参議などの公卿。 ○四位 — 官人の序列で四番目の位。
- 源実 — 平安時代前期の官人。 ○筑紫 — 九州地方の古称。 ○山崎 — 京都府大山崎町。

問一 ① **ず**、② **けり**、③ **なり**の前後を読み、文法的に適切な形に活用させなさい。

問二 Aの和歌における掛詞を二つ抜き出し、それぞれについて二つの意味を答えなさい。

問三 二重傍線イ「参り」、ロ「召しませ」、ハ「おぼしめす」の敬語の種類を次より選び、それぞれ記号で答えなさい(それぞれの記号は二度以上使ってもよい)。

ア 謙讓語 イ 丁寧語 ウ 尊敬語

問四 傍線1「よき人」とはどのような人か。本文中の人物を挙げつつ十五字以内で説明しなさい。

問五 傍線2「撰集をもけがす」とは具体的にどのようなことを指しているか。本文中に示された事例を挙げて二十五字以内で説明しなさい。

問六 傍線3「この歌」とはどのような歌か。二十字以内で答えなさい。

問七 傍線4「まこと」とはどのようなことを説明したものととして最も適当な選択肢を一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 白女の声が美しいこと
- イ 白女が帝に忠義であること
- ウ 白女が玉淵の娘であること
- エ 白女に秀でた才覚があること

問八 傍線5「霞ならねど立ちのぼりけり」とはどのような意味か。三十字以内で答えなさい。

問九 Bの和歌を現代語訳しなさい。

問十 次のア～カのうち、勅撰和歌集でないものを二つ選び、記号で答えなさい。

- ア 懐風藻
- イ 後撰和歌集
- ウ 後拾遺和歌集
- エ 金槐和歌集
- オ 詞花和歌集
- カ 新古今和歌集

問十一 本文『十訓抄』は鎌倉時代の説話集である。同時代の説話集の題名を二つ答えなさい。

三 次の文章は、「余」(柳宗元)が「浮図之人」(寺院の僧侶)から「鶻」(ハヤブサ)に関する話を聞き、さらに自身の所見を述べた一節である。この文章を読んで、後の問いに答えなさい(設問の都合で返り点・送り仮名を省略したところがある)。

著作権の関係上、省略します。

著作権の関係上、省略します。

(『柳河東集』「鶻説」より)

(注)

- 鶻 — ハヤブサ・ワシ・タカなど猛禽類の総称。
- 穴 — 巢を作りすみかとする事。
- 長安薦福浮図 — 長安に建立された薦福寺の仏塔。
- 室宇 — 居住すること。
- 鳥 — ここでは「鶻」に対して小鳥を指す。
- 完而致之 — 生け捕りにして巢に持ち帰ること。
- 浮図之肢 — 仏塔の先端。
- 爪吻毛翻之物 — 爪・くちばし・毛・翼を持つもの。鳥類の総称。
- 里閭 — 村里、郷里。
- 穀卵 — 卵から雛として生まれる事。
- 攫食決裂 — 食物をつかみ獲物を引き裂く事。
- 食類 — ここでは猛禽類を指す。
- 卓然 — きわだって優れている様子。

問一

① 熟 ・ ② 易 ・ ③ 穢 について、それぞれ本文中の意味と同じ使い方をした二字熟語を書きなさい。

問二

二重傍線 a ・ b ・ c について、読み方をひらがなで書きなさい。

問三 傍線1「苟東矣、則是日也不東逐」について、次の問いに答えなさい。

(1) 「苟」の読み方を、送り仮名も含めて、ひらがなで書きなさい。

(2) 傍線1を、主語を補って現代語訳しなさい。

問四 傍線3「遠而違之」とは、「鶻」のどのような行動を指しているか、その内容を具体的に示した一文を「浮図之人」の会話文中から探し、最初と最後の二字を答えなさい(返り点・送り仮名・句読点は除く)。

問五 傍線2・4について、筆者が「鶻」を2「仁義器」・4「仁義之道」と見なした理由を五十字以内で説明しなさい。

問六 本文の筆者である柳宗元は、「唐宋八大家」と称された優れた文章家の一人である。「唐宋八大家」に関する説明文として誤っているものを、次の中から一つ選び記号で答えなさい。

- ア 中唐の詩文家である柳宗元は、形式を重視する技巧的な駢儷文べんれいを否定して古文復興運動を提唱した。
- イ 中唐の詩文家である韓愈は、『韓非子』の中で「雑説」「師説」など寓意を込めた散文を残した。
- ウ 北宋の文人である蘇軾(蘇東坡)は、「赤壁賦」など三国時代の古戦場を舞台とした詩賦を著した。
- エ 北宋の文人である欧陽脩は、古文復興とその文章理念を受け継いで宋代文学の盛行をもたらした。